

令和元年10月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	令和元年10月23日(水)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時30分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	石井希典	
	委員	妹尾直人	
	委員	片山美香	
	委員	河内智美	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	石井雅裕	教育次長	岡林敏隆
次長(教育総務部長兼務)	赤野政治	学校教育部長	奥橋健介
生涯学習部長	重松浩二郎	教育企画総務課長	小林芳由
教育企画総務課企画調整担当課長	高坂仁美	指導課長	松岡和俊
生涯学習課長	湊田裕之	生涯学習課課長代理	田中光彦
オリエント美術館長	八田健郎	事務局(教育企画総務課課長補佐)	澤谷好太郎
事務局(教育企画総務課係長)	島田雅紀		
5 議題及び結果	なし		
6 教育長等の報告 [令和元年9月14日(土)～令和元年10月11日(金)]			
7/13～9/16	特別展「ミイラと神々～エジプトの来世、メソポタミアの現世」	オリエント美術館	
9/14	自然体験リーダー養成講座 step1	地域子育て支援課	
9/20	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/24	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
9/26	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/27	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
9/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課	
9/28～9/29	自然体験リーダー養成講座 step2	地域子育て支援課	
9/30	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	

10/2	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/4	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
10/8	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/9	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/10	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/11	教育長学校訪問	教育企画総務課
石井委員 教育長	<p>○ 9月も教育長がたくさんの学校をご訪問されていて、全体の比率から見ても、かなりの学校を回られているのではないかなと存じ上げるが、それぞれの学校の特徴を簡単に結構であるが、お伺いさせていただきたい。</p> <p>○ この事業報告の期間内に6校行ったが、最初の9月20日に行った建部小学校が今年度に入って17校目になる。</p> <p>学力向上について、建部は学校そのものが非常に小規模であるので、建部中学校区全員が集まってというか、同学年の教員が集まって研修をしている。要は単学級でその学年の担任が1人ずつしかいないということで、同学年の担任が集まって研修をするという工夫をされている。伝え合うということを授業にも活かして、コミュニケーション能力の育成に努めている。</p> <p>それから、研修については、『いどだわ研修』といって、いつでも、どこでも、誰でも、わずかでもという、コンセプトで研修をしているということであった。</p> <p>家庭学習にも力を入れているということである。問題行動そのものは少ない。それから、働き方改革については、あまり校長として力を入れなくても、早く帰っているという珍しい学校であった。</p> <p>それから、地域の方は非常に協力的である。クスノキを学校の木として、「人がすき、げんき、やるき」というのをスローガンにしているというようなことであった。</p> <p>妹尾中学校であるが、校長先生は以前妹尾中学校に勤めていたということもあって、地域からは非常に受け入れてもらっているということであった。中学校区で統一した考えで学力についても、問題行動についても頑張っているということであるが、その統一した考えというのは、自尊感情を高める、これを徹底してやるという考えで進めている。</p> <p>家庭学習については、日進月歩という名前の自主学習ノートをつくっているが、なかなか家庭の協力が得られないので、もっともっと工夫していかないといけないと言われていた。</p> <p>働き方改革についてであるが、若い先生が多いが、若い仲が良い教員が集団で遅くまで残っているということで、仲が良くて切磋琢磨しているようだけれども、早く帰るように言わなければいけないという話であった。ただ、校長先生が実習生をよく受け入れることがあるが、この教育実習生の意識が、学校はブラックではないというふうに思っしてほしいという観点で、先生方にアドバイスをしているという非常に前向きな意見があった。</p> <p>授業そのものは少し旧態依然とした講義形式の授業が多かったので、なかなか改革は難しいが、グループ学習をすとか、教室の中で机の向きを変えとか、形から入るといってもやっていいのではないかというアドバイスをした。</p> <p>それから、次に福田中学校であるが、9月30日に行ったが、福田小と福田中が小・中1校ずつの学区である。したがって、いわゆるしっかり連携をとってやっているということであった。成績は中学校へ行くと、1年生、2年生、3年生と学年を追うごとに成績は伸びていく。これはどうしてかということいろいろ校長先生に聞いたり、実際に授業を見てみたりしたが、どの学級でも非常に生徒たちがお互いに活発に意見交換していた。全学級で子どもたちの話し合いをする活動をしっかり取り入れて、先生が講義形式の授業をするのではなく、非常に活性化した授業を見せてもらった。</p> <p>福田中学校流のやり方なのであろうが、管理職として工夫していることで、転</p>	

勤してきた先生もすぐに慣れるようにVTR、ビデオをつくって、このような形でやっているというのを見て新しい先生も慣れていくといった工夫をされている。非常に成果が出ている。

それから、共同学習というのは、ただ単にグループで勉強するというのではなくて、最後には一人一人にしっかり目を向けて、一人一人の学力を伸ばすんだという形と言われていた。1年生、2年生、3年生と上がるごとに成績がよくなっているし、それから学年を追うごとに非常に温かい学級集団になるんだということもずっと言われていた。

家庭学習については、どの学校でもあるが、自主学習にしっかり取り組んでいるということであった。

それから、問題行動としては、私は不登校のことしか聞いてないが、今、合計8人いる。中学校で出現した子もいるが、大体小学校から引きずっていることが多いので、これがまた後からも出てくるが、1小1中の欠点で、人間関係が余り変わらないので、現状がずっと続いていくということも考えられると言っていた。

それから、働き方改革については、ちょっと時間が違うのではないかなと思ったが、20時下校といったことを徹底したいと言われていたので、恐らく平素はもっと遅いと思う。

それから、福田中学校の特徴的なこととして、ノーチャイムである。ノーチャイムであるが、もう慣れているので、全く心配はないということであった。

続いて、操明小学校だが、学力の向上については、とにかくまず学校を落ちつかせないといけないということ。落ちついた学校生活をみんなに送らせないといけないということを第一に考えてきたので、これからであるという意見であった。家庭学習については、一応手引書のようなものをつくって配付して、頑張ってくださいということもやっているが、学力向上についてはこれからであるということである。

問題行動になるが、今年校長先生が3年目か、4年目になるが、今まで修学旅行は本当に大変だったが、今年の修学旅行は非常に落ちついて、とてもいい旅行ができたと言っておられた。

それで、働き方改革について聞くと、保護者への連絡を素早くするというところで、生徒指導上のトラブルを、後に引きずるトラブルを少なくしたいということで、それが大きな働き方改革になる。逆に言えば、そういうことでかなり遅くまでクレームを聞いたりとか、生徒指導でのトラブルがたくさんあったりすると思う。

地域とのつき合いは出過ぎないように、でも出ないわけにもいかないので、慎重に対応しているということである。

特徴的なこととして、校長先生が話の中で先生たちを非常によく褒めておられた。チームの和を高める学校経営というのをされているのだなと思った。この操明小学校は市内の新しい学校と同様にオープンルームという形式をとっている。オープンルームにはメリット、デメリットもあるが、今は、ロッカーを置いて廊下を広くせずに、各教室を区切って若干オープンではないようにして、デメリットの部分の部分を少なくするという対応されている。これが操明小学校である。

それから、富山中学校であるが、私が新採用で富山小学校に勤め出して5年目ぐらいにできた新しい中学校である。それで、顔や名札を見ると、きっとこれは私の教え子の子どもではないかというような子が、顔も似ていたりして、何か非常に懐かしい思いがした。

ここも福田中学校と同じように学区に富山小学校しかない。校長先生同士も、それから先生同士もよく連携をとって、1人の子どもをしっかり継続的に追っていているというものがあつた。

福田中学校と同じように、学年を追うごとに成績が上がっているということも言われていた。工夫として、水曜日の放課後に30分だけであるが、学習時間を設けてプリントをしている。そのプリントは自分自身で判断して、どんだんグレ

	<p>ードアップしていく仕組みをつくっているらしいが、そういったことで一人一人が学力に目を向けるように組んでいるということである。</p> <p>富山中学校も家庭の教育ということで、メディアコントロール習慣、要はゲームやスマホとかの時間を短くしましょうということ、これを幼稚園も含めた中学校区で設けているということである。ただ、このことについても無関心な家庭が多いかなというふうなことを言っている。</p> <p>不登校は10人以上いるそうであるが、これも小学校高学年からの継続の場合が多くて、3年生に多くて、これは憂慮していると言われていた。これは人間関係が変わらないという弊害かなと思う。</p> <p>働き方改革については、テストの日数を短縮したり、しっかり授業を確保したりするように努めることで働き方改革をしているということであった。</p> <p>学区の小学校、幼稚園とよく話し合いの機会を持っていると言われていた。</p> <p>それから、地域は非常に協力的で、例えば中庭清掃はもう地域の仕事であるということで、受け持ってやってくれたりしているそうである。中学生がボランティア活動で地域にしっかり出ているので、そこでよく褒められていて、いい関係ができているということであった。校長先生自身も先生と子供の一体感というのが見えることが多いので、本当にそれは喜びに感じているというふうに言われていた。</p>
石井委員	○ 各学校も岡山市の重点を置いている考え方というのをきちっと取り入れられてやられているということで、主に今、変わらなきゃいけないことというのがたくさんあって、それぞれの学校でその内容は若干それぞれ違うのかもしれないが、変化への対応力を皆さんが一生懸命されているということがよく理解できた。
石井委員	○ 福田中学校のところで、だんだん学年が上がるにつれて学力もよくなるというのは、すごくいいことと思う。前からわかっていることだと思うが、その学力は、固定されたものではないということがちゃんと証明されたことだと思うし、学校の力の大きさというのも、それによって変わっているんだということの証明にもなると思うので、ぜひほかの学校でも広がればいいと感じた。
教育長	○ 本当に福田中については、多くの中学校がまねをすればいいような、取組をしていたなということである。もともと落ちついている中学校区ではあるが、落ちついているからこそ授業を活性化させて、新しい手法を取り入れ、いろんな取組を進めているというところがいいと思う。実は落ちついているから先生が旧態依然とした授業をできるところもあるが、そうではなくて、チャレンジしているという部分でもすごくよかったかなと思う。
事務局	○ 事務局のほうから資料の訂正についておわびである。事業報告の1番であるが、オリент美術館特別展について、会期中入館者数は、昨年の数値が入っており、正しくは入館者数1万9,169人、小・中学生が2,197人である。
片山委員	○ ミイラ展であるが、この小・中学生の来客数がすごく多いと思うが、これは学校単位で鑑賞ということなのか、それともご家族と一緒にいった自主的な参加が多いのか、そのあたりを教えてください。
オリент美術館長	○ 学校でまとまって来ていただいたことはないのですが、ご家族で来ていただいている。エジプト、ミイラということで、興味が深い方が多いようで、昨年度上期の8から9倍の小・中学生に来ていただき、大変ありがたかった。
片山委員	○ 来館の人数や対象者やどういふ方が来てくださるかというのは、予測をされて、小・中学生でも、子どもたちにも興味、関心があるようなものを引いてこられるというようなことがあるのか。
オリент美術館長	○ 小・中学生中心で企画すると、なかなか大人が入らないようなこともあるが、今回、エジプトというものについては、以前オリент美術館で吉村作治さんのエジプト展を何回か取り上げた経験があり、そのときの入館者がとても多かった。オリент美術館のエジプトといえば、ある程度皆さん、見に来てくださるのだなど、かつての館長がそのように申ししていた。
片山委員	○ 教育長の学校訪問とあわせて、子どもが輝く学びづくりプロジェクトでの公開

指導課長	<p>授業で授業をされているので、この意味合いとしてこれをやって、どういうところが高まっているのかご説明をいただきたい。</p> <p>○ 子どもが輝く学びづくりプロジェクト公開授業については、代表者が公開授業を実施して、中学校区の教員がその授業について協議をし、最後に大学の先生や指導主事が指導をして今後の授業改善に活かすという流れで進めている。</p> <p>今、テーマとして一番多いのは、新しい学習指導要領に関連したアクティブ・ラーニングで、例えば先ほど教育長からも出た、伝え合うにはどういうことをしたら伝え合うことができそうだとか、それから思考力をつけるための授業というのはどんな授業なのかと、そういった授業づくりが多く占めている。</p> <p>私も岡山後楽館高等学校の社会の授業に参加したが、ドイツのヒトラーについて、当時はドイツの国民はどう考えていたのかということを中心に議論をしていた。生徒たちは慣れているようで、先生が細かい指示を出さなくても、自然とグループ協議が始まった。特にすごいなと思ったのは、一人一人の主張する内容と、その主張する内容の理由がすごく明確で、まず説明をして、その後、理由をつけ加えるという説明で、しかも議論が大変盛り上がっていた。高校3年生だったということもあるが、小・中学校の目指す姿が見えたようないい授業であった。先ほどのお尋ねにあったが、それぞれの学校が授業、それからその後の協議について工夫して取り組んでいて、授業づくりというのが、地道であるが、着実に学校のほうの授業研究のいい形というのが定着してきていることを感じている。</p> <p>ただ、一方で学校によっては研究体制等のまだ課題があるという正直な感想もあるので、課題をこの子どもが輝く学びづくりプロジェクト公開授業をきっかけにして、学校や教育委員会で共有しながら改善を重ねているような状況である。</p>
石井委員	<p>○ アクティブ・ラーニングについては、単純にやればいいじゃないかということではなく、いろいろな環境整備とか、先生方への事前の練習というか教育も含めて、いろんな準備があって、やっとならぬことだというのは理解できたが、現在、浸透度合いというのは、もう8割方できているとか、そういう感じなのか。</p>
指導課長	<p>○ これは何年もかけて教科ごとに毎年全教科で、アクティブ・ラーニングというのはこんなイメージというのを丁寧に説明していく。学校も、そこに対する意識がとても高いので、かなり浸透はしてきていると考える。</p>
河内委員	<p>○ 先ほど教育長からお話を伺った中で、福田中学校の例をお聞きして、素晴らしいと思った。話し合い活動がどのクラスでも活発に行われているということと、それからVTRで福田流教育を教員が皆、共通認識しているというところが、非常に素晴らしいなと思ったが、中学校は教科で分かれているので、なかなか学校全体での教育のスタイルとか、学習方法のようなものをどの教科でも、どの学級でもそろえて、いいところを生かして、力をつけていこうという取組だと思うが、このような中学校の実践例のようなものがほかにあるのかどうか。それから、こういったものを岡山市全体で、中学校の授業力を向上させていくには、ものすごくいい事例だなというふうに思うが、どのような状況であるか。</p>
指導課長	<p>○ 中学校が教科の壁を越えてという議論がとても重要だと考えている。実は子どもが輝く学びづくりプロジェクトを代表授業にしたのもそういう経緯があって、一つの授業をいろいろな教科の教員が見ていく。それは、学年単位であって、校内研究するときには主に学年単位である。それから、こういう大きい公開授業をするときは学校全体でその一人の教員を支えていく。例えば、別の教科の教員が、それは私もわからないというようなことも本当に議論しながら進めていく素地づくりというのができている。それは実は共同学習で、岡輝中であるとか福田中でやってほしいところをうまく取り入れて、それを広めていこうという意味でこういうやり方にしていくという部分もあって、少しずつではあるが、教科を超えた中学校での取組というのが広がっていると感じている。</p>
教育長 全委員	<p>○ ほかにないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p>

7 議事の概要

教育長	○ ただいまから10月の岡山市教育委員会定例会を開会する 傍聴希望者はいない。 日程第1、会期について、本日1日限りとしてよいか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ 日程第2、9月の定例会の議事録であるが、作成中のため、次回ご確認願う。 日程第3、事業報告について、何か質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
教育長	○ 本日の定例会は付議事件の提出がないので、予定していた日程はこれで終了となる。 以上をもって令和元年10月教育委員会定例会を閉会する。